



作品集



令和四年二回目の種文学賞は、次のお題で作品を募集しました。

小学三〜四年生の部 「お気に入り入りの場所」

小学五〜六年生の部 「なりきり商店街」

中学生の部 「なりきり市中案内」

高校生の部 「なりきりわが街研究」

提出された全作品を紹介します。ぜひお楽しみください！

※ 筆者・作者名はペンネームで記してあります。

【小学三〜四年生の部 「お気に入りの場所」】

☆ 自分が気に入っている場所のことを二百字以上の文章で紹介するというお題です。四人が作品を出してくれて、その内の「ユニバおたく」君がこの部の最優秀作品にかがやきました。

筆者 アウディ (小四)

ウィーンのお気に入りの場所

ぼくのお気に入りの場所はウィーンです。それどこ？と思う人がいるかもしれませんが。ウィーンの場合はヨーロッパのオーストリアにあります。そして、なぜお気に入りの場所かという点1・2年生のころにそこへ旅行に行き楽しい思い出をしたからです。ぼくがウィーンの中でどこが好きになったかというと、雪がいっぱいふるところです。そもそもぼくは、雪が大好きでした。雪がっせんをしたり、雪だるまを作ったりするのが大好きです。しかしぼくの住んでいる地いきではそんなに雪がふらないのでそんなにしたことはありませんでした。ウィーンのスキー場で雪だるまづくりをしました。初めとした時はとてもおもしろかったです。この事以外でも、ウィーンでしか見られないものを見ました。それは、お城の中にあるいろいろなものです。たとえば、えらい人が食事をした部屋やねた場所に行きました。食事をする所なんてすべてガラスでできていました。じしんがおこったらあぶなそうだなーと思いました。そのお城を見た後は馬車でホテルまで帰りました。ぼくは馬車に乗ったことがなかったのでうれしかったです。馬車が動いているときの景色は、とてもきれいでした。

またウィーンに行っているんな所に行き、もっともっとウィーンのみ力を知れたらいいです。

筆者 M・Y (小四)

お気に入りの場所

私のお気に入りの場所は、花がたくさんさいている神戸布引ハーブ園です。とくに何が好きかというと、まずは、自然ゆたかなかんきょうです。山の中に私の好きな花がさいていると気持ちよい気分になります。しかも、ロープウェイがあつて高い所から景色を見わたしたりするのがたのしいです。私のおすすめの場所は、ハンモックの中です。すずしい所でねられるのがとても私のおすすめです。しかもつかれたときのいやしにもなってくれます。それに遊ぶ所があつてそこでキャッチボールやなわとびをしたりします。それらすべてが私のお気に入りの場所です。

筆者 きょうりゆう (小三)

とくにすきな場所

みな様はお気に入りのしせつや場所がありますか？ぼくはあります。だからそのうちの2つの場所をしょうかいします。ぼくのお気に入りの場所は、ぼくの家の庭です。どういうところが好きかというと、木や花がたくさんはえていて、しぜんがあじわえてここちよいところです。あと、友だちがきたときにドッチボールやおにごっこなどのいろいろな遊びができるところも気に入っています。

もう一つのお気に入りの場所は、しん室です。そのしん室には、ベッドとせんぷうきとクーラーがあります。ほかの人から見ればとくにいいところはありませんが、ぼくからしたらとてもお気に入りです。どういうところが好きかというと、そこにいればねむたくなるときでもねむれるし、不安な

気持ちがすぐにぶっとんでいくところです。あと、庭から聞こえる小鳥の声も聞こえて気持ちがよくなるところも気に入っています。ぼくはきつといつまでたってもこのしん室や庭が大すきです。

筆者 ユニバおたく (小三)

ユニバーサルスタジオジャパン



ぼくは、ユニバーサルスタジオジャパンがお気に入りです。たとえば、ジェットコースターがすごく楽しくて、夜になるとジェットコースターが光ったりピエロやゾンビが近よってきたりするのがすきです。

年間パスポートをもっているので土曜日や日曜日に学校帰りに友だちといっしょに行くことができますのでうれしいです。

すきなアトラクションは、ハリウッドドリームです。のっけて上へのぼる時は心ぞうがどくどくときんちょうします。下る時はこわくて声がでなくなります。のりおわるとあせが出そうだけれど、楽しいです。ウィザーディング・ワールド・オブ・ハリーポッターというアトラクションもすきです。どういう所がすきかというドラゴンが火をふくと本当に足や手があつくなったり、回てんするのがすきです。

アトラクションだけでなくすきなレストランもあります。ジョーズの前のレストランです。そこで食べられるチキンとポテトののったりよう理がすきです。

これまでユニバで買った中で一番大切にしているのは、スパイダーマンのキーホルダーです。そのキーホルダーはお出かけする時に使うカバンのフアスナーにつけています。

ユニバに行く前は車の中でねむっているけれどユニバにつくとねむくなくなって、いつもより歩く数が多いけれど楽しいからつかれないです。夜、

帰る時ユニバの中だったらねむくないけれど、ユニバの外に出るとすぐねむってしまいます。ぼくにとってユニバーサルスタジオジャパンはかけがえのない物です。これからもいっぱいアトラクションにのりたいです。

【小学五〜六年生の部 「なりきり商店街」】

☆ 小学五〜六年生のお題は、田根市にある巢見矢小学校の生徒になりきって、近所にあるお宮通り商店街の紹介をするというものです。最終的に書き上げるところまでいけたのは、なんと二人のみ。とてもきびしい戦いでしたね。さて、そのうちどちらが最優秀作品賞にかがやいたでしょうか……？

筆者 一 (小五)

ぼくの家は巳神小京都エリアの南東の所にあります。だから巳神小京都エリアが近いので電車に乗っておばあちゃんの家に行く時はいつも巳神小京都エリアでおみやげを買います。おばあちゃんはそのたびよこんでくれてうれしいです。

さて、お宮通り商店街は小学校の登校の時通るし家から近いので休日お父さんとよく行きます。

まずぼくがしようかいするのは麵屋 雷のことについてです。麵屋 雷は休日お父さん一緒にたべにいきます。ぼくがいつもたのむのは、ピリ甘しようにラーメンです。お父さんはげき辛とんこつラーメンです。お父さんは食べる時に「からっ」といつもいいます。ぼくもお父さんが食べているラーメンをいつか食べたいと思います。

次は尾張不動産のことについてです。いつも車のドアに織田信長のイラストがかいてあります。信長はこわいイメージだけれど、このイラストはとてもかわいいです。店内には信長のロボットがあります。セリフを言ってくれます。たとえば「わしは六天ま王織田信長じゃ。」などと言います。お母さんとお父さんは尾張不動産に行って、いまぼくたちがすんでいる土地を決めたと言っていました。

次にしようかいするのはスポーツギアです。いつもぼくがスポーツの道具を買う店です。とくにサッカー系の物を買っています。この店のサッカー

のキーパーのグローブはプロのサッカー選手が使うほど人気のお店です。ぼくと一緒にサッカーをしている人は全員同じグローブだからいつもほかの人のグローブをまちがえて使っています。だからいつも名前を書いているかチェックします。

次に亀やをしようかいます。ここでは亀や亀のこうらなどを売っています。お父さんが亀が大好きなのでかめやで買ってきた亀を今飼っています。もちろん亀のえさも亀やで買っています。お父さんは亀を見ているだけでお世話ほくがやっています。お父さんはいつもおこられているのにお世話をしません。

以上、商店街のオススメなお店のしょうかいをしました。ぼくはもう一回商店街のことをくわしく作文にかけたのでおもしろかったです。二年生の時に商店街の好きな店を書くことをしました。その時よりくわしく書けたのでうれしかったです。これで発表をおわります。

筆者 ベニテングダケ (小五)



市立粟見矢小学校の南側にすすんだところにあるお宮通り商店街。とてもにぎやかで、楽しくて、いつも利用させていただいています。そんなすばらしい商店街から二軒、お店をしょうかいます。

まず一軒目はみこし大通り側の一番はしにある、だがし屋本舗。創業一九〇〇年のだがし屋です。店主四代目のやよいさんは、八十才ですが、とても元気です。だがし屋本舗では、昔のおかしから現代のおかしまで、全て五〇円ではん売しています。おかしは、どれもキラキラしていて、店頭にならんでいることをとてもうれしく思っているように見えます。やよいさんにインタビューしてみると、

「うちの店のおかしは、人を喜ばすことのできる特別なおかしなんだよ。」

と笑って話していました。だがし屋本舗は、来月から休業して、一年後にリニューアルオープンするのだとか。新しくなっただがし屋本舗を想像するだけでとても楽しみです。

二軒目は、亀や。業見矢神社の正面にあるおいしいおいしいうどん屋です。名物は、うどんではなく、サイドメニューのかきあげです。店主は、良い質の野菜しか使いませんし、作り方は企業秘密ですが、とてもこだわって、時間をかけて作っているのだそう。シンプルなネギだけがのったうどんにかきあげをのせて食べると絶品です。そのため、かきあげだけをテイクアウトにする人もたくさんいるそうですし、デリバリーの注文では、約六割がかきあげの注文らしいです。店主もとても面白いですし、店内がうどん屋なのに、カフェのようなオシャレなつくりであるところもとても面白いです。取材に行った時間帯に店主はいなかったのですが、亀やでアルバイトしている今木さんにインタビューしてみると

「亀やお宮通り店は、大正時代から営業しているので、長い歴史があります。その歴史がとぎれないように、アルバイトのぼくも、お客様にすばらしいうどん屋だと思われるように、日々努力しています。」

と話してくれました。こんなにすばらしいうどん屋、なかなかありません。ぜひ、商店街に来たら、一度立ちよってみてください。

ここまで、お宮通り商店街をしよう介してきましたが、どうでしたか？ しよう介した二軒とも、すばらしく、みんな大好きなお店です。もちろん二軒以外にも、たくさんのお店があります。商店街を歩くだけで楽しい気持ちになりますよ。

私は、今回の社会科の課題を通して、商店街のすばらしさと、これからも伝えていかなければならない伝統の大切さを改めて実感しました。今後も商店街を利用しますが、いつになっても、お宮通り商店街は世界で一つの良き商店街であってほしいと思いました。これで、私の発表を終わります。

【中学生の部 「なりきり市中案内」】

☆ 中学生のお題は、田根市にある巢見矢中学校の生徒になりきって、地域全体の紹介をするというものです。巢見矢中学校の生徒会長の立場になって、となりの市にある中学校の生徒たちにおいて、田根市の紹介をします。期限までに文章を完成させ提出できたのは、三人。こちらもきびしい戦いでした。そのうちだれが最優秀作品賞にかがやいたでしょうか……？

筆者 あああああ (中二)

拝啓 田根市では先週大雪が降り、家の一階がすべて埋まってしまうましたが、北砂市の皆さんの調子はいかがですか？

さて、ここ、田根市墨屋区の南西部には県立巳神城址公園があり、そこで毎年このごろになると、田根市雪像選手権が開催されます。昨年は高さ5mの電気スタンドが優勝しました。

巳神城址公園の北西には巳神文化科学館があり、その科学館は、レストランのおいしさと、プラネタリウムのクオリティがとても高いということで有名です。レストランには、宇宙食や代替肉、一粒たべるだけでおなかいっぱいになる二二世紀の青いロボットが持っていそうなごはんなど、百数十種類ものバリエーション豊かなレストランなので、お食事が楽しくなることは間違いありません。プラネタリウムは、室内にいながら、まるで外で実際に星を見ていると錯覚するほど再現度が高いです。その科学館から通りをはさんで向こう側にあるのは、市立すみや動物園です。ここでは、動物や昆虫などがおり、ネコやゴキブリなどよく見るものから、サーベルタイガーや恐竜など、絶滅してしまった生き物まで遺伝子工学によって復活させて飼育されています。この動物園では、とてもおいしい昆虫食や、家ですぐつくれる昆虫食など、未来の食料問題の解決に力を入れています。

みなさんは鈴木太郎を知っていますか？ 彼は風景画をおもに描いていて、のどかな田園風景から現代の町並みなど、様々な風景を、変わった視点で描いているので有名です。その鈴木太郎は一九三七年二月四日にここ、田根市で生まれ、二〇〇九年八月一日に亡くなり、彼の功績をたたえて鈴木記念館が二〇一八年にオープンしました。この記念館では絵が描けるコーナーがあり、そこは、年中ずっとにぎわっています。

最後に、巳神城が、鈴木記念館のおかいにあります。この城は、元々難攻不落で、この城を落とせた者はあるときまで一人もいませんでした。一五四八年、城主は九代目城主の巢見矢永吉でした。その年の二月、志未津正紀という武将がこの城を攻め、巢見矢永吉はろう城をしていました。そうした日が続いたある日の深夜、直径三〇〇mの隕石が落ちて来て、現在鈴木記念館があるあたりに落ちました。その結果城は吹き飛び、一部の石垣と礎石のみがのこり、城内にいた人々は全員死亡しました。志未津勢も、ガレキや爆風などで多数の犠牲を払いながらも巳神城とその周辺を制圧することができ、それによって、正紀はまだ誰も落とすことのない城を落としたということでも莫大なほうびが与えられ、大出世しました。こうして正紀は歴史に名を残しましたが、後に見つかった彼の手記では、巳神城の守りははたかく、隕石がなければこちらの食料が尽きて負けていたかもしれないと書かれており、正紀も、巳神城攻めにとっても苦戦していたことがうかがえます。巳神城という名前の由来は、地中や壁の中などに空洞があり、毒を持った蛇を飼育して中世の生物兵器として利用していたことから、巳神城と呼ばれるようになりました。

以上の四つ以外にも、安いわりに神戸牛並みの品質の肉の花房や、蛙をかたどった和菓子がたくさんおいてある和菓子蛙屋など、田根市には人生で一回は行っておくべき所がたくさんあるので、ぜひ、田根市までお越しください。

敬具

筆者 アルマジロトカゲ (中二)

北砂中学校の皆さん、こんにちば。巢見矢中学校の卯田です。今回は、この交流会を経て両市のことをよく知り、また関係を深めるためにこちらか

らも手紙を送らせていただきます。

田根市の代名詞は和菓子、といわれるほど田根市は和菓子が有名です。田根市の和菓子は独特で、米をつかっているところは普通の和菓子と同じですが、味がまったく違います。中に入っているあんが甘すぎず、甘い物が苦手な人も食べられます。また、あんをつつんでいるものは様々な味があり、やわらかさもその菓子の種類によって変わります。たとえば、北の方にある和菓子蛙屋ではその名にあったかわいらしい蛙が様々な季節を作っています。大志製菓は一度は聞いたことがあると思います。ぜひ食べてみてください。

そして、田根市といえば菊古川の菊も有名です。墨屋には第二の花見があるといわれ、第一は華やかに咲き乱れた桜を見る春、第二は菊古川を美しく彩る大輪の菊を見る晩秋です。特に戸堂布帛は毎年早い時期に雪がつもるので、川原はあたり一面白くなります。

さて、田根市には、米に関する様々なものがのこされています。米倉は有名ですが扱き箸や唐棹は数えられないくらい大量に出土し、千歯扱きも三台ほど見つかっています。また、西の方にあった、今は戦争中に空襲で焼けてなくなってしまった巳神城の地下にあったとされている納税の記録では、他の地域は毎年十分に納めきれないにも関わらず、田根市周辺の集落は他の地域の分の穴うめをするほどまで米を納めていたそうです。なぜ全国的にききんになっても田根市だけ毎年豊作なのか長年の謎でしたが、近年の地層調査で昔は焼き畑を行っていたことがわかりました。特に墨屋駅周辺の土地は養分を多く含んでいたそうです。いつ頃に焼き畑が始まったのかはあいまいですが、少なくとも江戸時代前期にはもう行われていたそうです。さらに、お宮通り商店街の奥にある巢見矢神社には、火借山には山神様がおられて、白い大蛇の化身をつかわされて稲作をお守りになられた、と伝わっています。そのため、市民の間には蛇を見かけても追いはらったり、殺したりしてはならないという、暗黙の了解があります。

そして、もう一つ有名なのが戦国武将の小嶋雷山の生家です。小嶋雷山は、唯一出身地がはっきりとわかっている歴史人物です。小嶋雷山は武士になる前は山賊をしていたそうで、史上唯一の元山賊の武将でもあります。彼が山賊から武士になった経緯は諸説ありますが、山賊のころから刀の腕は確かだったようで、戦の功績で名を高めていったそうです。

田根市には北の方に巳神城があるのですが、この城は小嶋雷山が建てました。巳神城は戦のために建てられた城で、いたるところにわながしかけら

れています。また、海、山にも近いので、どこから領地を攻められても撃退できました。実際にも海から攻めてきた敵に気がつき、迎撃しながら城に知らせの馬をおくり、援軍も戦いに参戦して勝利する戦法が多く使われました。

西の方にある都からみて、北東に火借山がありました。北東は「鬼門の方角」といわれていて、鬼門から寅の毛皮の腰巻きをはき、丑の角を生やした鬼が来ると信じられてきました。そのため、都を北東から来る鬼に襲われないようにと考えて建てられた寺が能龍寺です。平安京と同じです。火借山には白い大蛇の山神様がおられると前述しましたが、能龍寺を建てたころは山はまだ山神様はおられず、鬼の住み家だったそうです。

以上の計五つの有名な物や歴史、伝説などを紹介しました。この五つの他にも様々な歴史、店、建物、食べ物などを紹介したかったのですが、すべて書いていると手紙の枚数が二十枚を超えてしまいそうなので、田根市で最も有名な話を五つ紹介しました。今はインターネットで調べればあらゆることは知れますが、やはり現地に行くことが一番その土地のことを知れると思うので、ぜひ田根市に来てみてください。

筆者 N (中三)



私は市立葉見矢中学校の生徒会長です。今回、北砂中学校の交流行事の一環として、私たちの学校がある田根市内について紹介したいと思います。

まず、県立巴神城社公園の近くに「青姫井戸跡」というのがあるのはご存じでしょうか。今はただの井戸のように見えますが、この井戸に関して昔から語り継がれているお話があります。そのことについて少し紹介したいと思います。諸説はありますが、この青姫という人は普段、人間の姿ですが真の姿は蛇であったそうです。そんな青姫が夜、自分の姿を見るために訪れていた場所がこの井戸です。ある日、井戸をのぞき自分の蛇の姿を見ると、通りがかった人に見つかってしまい井戸の中に消え、「青姫の井戸」と呼ばれるようになったそうです。この井戸の近くから、城の跡が発掘され

たことから「巳神城」と呼ばれるようになりました。

城の次には、私たちの学校の近くにある「能龍寺」と「巢見矢神社」について紹介したいと思います。一見、関りがないように思いますが、これらの寺と神社には深い関りがあります。能龍寺はご存じの方が多くと思いますが龍が祀られています。むかし、能龍寺の近くにあった神社からとても大きな穴が見つかったことから「能龍寺の龍の巢穴だ」とされてきました。また、穴の中に矢のように尖った龍の爪のようなものが出てきたことから、「巢見矢神社」と名づけられたそうです。このようにこの2つの寺と神社にはすごく深い関りがあるのです。この2つの寺と神社では、今、龍が描かれている限定の御朱印があります。私もこの御朱印を授かりましたがとてもきれいで、力強い文字が魅力的です。興味がありましたら、ぜひ足をはこんでみてください。

さて、巢見矢中学校の近くといえば、小嶋雷山の生家があります。みなさん、小嶋雷山は教科書で一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。小嶋雷山とは一九二一年、田根市(当時の双葉市)で生まれ、一九七三年で生涯を閉じた歌人です。彼は徴兵され戦争で戦うことになっても短歌を詠み続けました。田根市では彼の功績をたたえるために、菊古川沿いにあるみずべ公園の近くに記念碑を立てました。菊古川にサイクリングやランニングをしたことがある人は一度はみたことがあるのではないのでしょうか。そこにはこの短歌が石碑に刻まれています。

きらめきて ふるさと照らす 菊古川 このかがやきはいつまで続くか

この短歌は彼が戦争に行く前に愛するふるさとを思って詠んだ短歌です。彼がいつまでこのふるさとの状態が続くかどうか心配している様子やふるさとへの愛情の深さがよくわかります。小嶋雷山は歌人としてだけでなく蕎麦好きとしても有名でした。ただの蕎麦ではなく、この地域の特産品である菊古川の水を使って育てたソバでつくった「菊古蕎麦」です。お宮通り商店街にある「麵屋 雷」では小嶋雷山の子孫が小嶋雷山がとても愛した菊古蕎麦を打っています。

ところで、お宮通り商店街には「クレープ委員会」があるのをご存じでしょうか。クレープ委員会とは県立田根高校の「地域同好会」の一環として、始めた企画です。最近、この商店街では高齢化が進み若い人の客足が伸び悩んでいました。そこで、私たちの先輩にあたる、高校生の人たちが若

い人たちを呼び込むためにインスタスポットや写真映えがするクレープを作ることにしました。来年の四月オープンの予定です。

田根市は歴史が深く、とても豊かな町です。いつか、お互い顔をあわせながら交流をしてみましよう。ぜひ、少し足を延ばして田根市、市立葉見矢中学校に来てみてください。

【高校生の部 「なりきりわが街研究」】

☆ 高校生のお題は、田根市にある常桐大学付属高校の生徒になりきって、地域のことがらについて調べたレポートを書くという内容です。これもなかなか難しいお題でしたが、二人の生徒が提出してくれました。ただし、残念ながら、どちらも最優秀作品としての水準に達していなかったため、今回この部の最優秀作品は無しとさせていただきます。ただ、二人がそれぞれ苦勞して書き上げた作品はぜひ見ていただければと思います。

筆者 あ (高二)

巳神城跡の文化財登録についてのレポート

はじめに

巳神城跡は特別史跡に指定されてから十年が経った。そこで、巳神城がなぜ登録されたかについて考える。まず特別史跡とは何かを説明し、その

周辺の歴史をひもとく。また当時の立地やそれにより生じた伝統文化や産業を説明する。そうして巳神城跡が大変貴重でいかに国の文化や歴史を物語っているかということも明らかにしていく。

特別史跡とは

特別史跡は国指定文化財の一つで、次の三つの条件を満たし、特に重要だと思われるものである。

- ・ 国土の歴史的景観に寄与しているもの
- ・ 造形の規範となっているもの
- ・ 再現することが容易でないもの

以上のものを満たすものが特別史跡である。

巳神城やその周辺の歴史について

まず菅原道真が亡くなって五十年後、菅原道真の神号火雷天神の名と雷神信仰が結びつけられ、道真が農業に関する神として現在の火借天満宮にまつられた。その後菊古川の豊かな水に恵まれ、田根市周辺は農業で栄えた。しかし戦国時代に入り人々は不安を覚え自分たちの街全体を城とした。このとき天守を火借山展望台付近に建てようとしたが、火借天満宮付近で戦うことを人々は避けるために二番目に標高が高かった現在の巳神城跡に建てた。またこのとき籠城戦に備えて人々は井戸を掘った。その井戸の水はとてもきれいで皆に重宝された。この井戸の水が青く澄んでいて姫のよう的大事にされていたので青姫井戸と呼ばれるようになった。さいわいあまり戦闘はなく巳神城は江戸時代まで築城当時の姿を残していたが、大火事で大部分を焼失させてしまい現在に至る。

巳神城とその周辺の地形、伝統文化や産業について

巳神城は標高が高い場所に位置し、菊古川が少し谷となっている。また巳神城付近は未開拓地が多く自然豊かな土地となっていた。先述したように日本ではめずらしく街全体が城となっているため、所々に石垣ややぐらが存在していた。その数は必要以上に多く百カ所以上もあったとされている。しかし、京都からも離れかなり奥地にあつたため、この土地をめぐる争いもなかった。戦国時代についても敵を迎え撃つことができるようになってから、人々は安心し、農業の暮らしも少し余裕をもてるようになったため、人々は周囲にある立派な木ときれいな水から楽器や織物を作った。特に織物はきれいな水を使い染められたため、色鮮やかなものとなっていた。

終わりに

以上より巳神城跡は全国的にもめずらしい城であり、石垣などが多く築かれて残っており、豊かな自然に恵まれ栄え、特産品の楽器や織物もあるのが非常に貴重であると判断され、二〇一二年に特別史跡に登録されたのである。

筆者 マリモ (高二)

キクコマリモについて

はじめに

戸堂布田根市を流れている菊古川は『世界の中でめちやくちやきれいな川ランキング』において、一二〇四位という成績を残している。そんな菊古川だが、実は『世界の中でめちやくちや不思議な川ランキング』では五位というところでもない記録を残しているのである。なぜこのような順位を記

録したのかというと、菊古川には世界でも数少ない緑色で丸いマリモのような植物が存在できる川だからである。それはキクコマリモと呼ばれ、普通のマリモとは生息できる条件がかなり違うが、見た目はマリモそのものである。次の段落ではまず菊古川へ調査に行って分かったことを書く。次に、水辺の生き物館での取材で得た情報を述べる。

1 菊古川の調査結果

夏休み中の八月二日の二十三時半に菊古川への調査に赴いた。なぜ真夜中なのかというと現在菊古川は立ち入り禁止区域となっているからである。国土交通省が設置したキロポスト（海からの距離をあらわしたものの0km地点から1km区切りで調査することにした。菊古川は流域面積はさほど広くない。その日は0〜1km地点を一往復して探したが、キクコマリモを見つけることはできなかった。翌日の八月三日、二十三時半、1〜2km地点までを探したが、成果を上げることができなかった。そのまた翌日八月四日二十四時、2〜3km地点を探したが、成果は得られなかった。またまた翌日八月五日三〜四km地点を探索した。キクコマリモを見つけることはできなかった。八月七日五〜六・2km地点を調査した。六・2km地点が菊古川の最上流である。そこでくまなく調査したが、キクコマリモを見つけることはできなかった。調査をすすめていくうちに次のようなことが分かった。水深が2mで均一になっていること。水の色はどの区間でも濁っておらず透き通っていたこと。水深が2mであることと、水が清澈であるということは、キクコマリモの生息条件である。このことから、キクコマリモは生息できる条件が整っていても数が少ないのか、見つけるのは困難だと分かった。

2 水辺の生き物館への潜入調査

八月十四日、自力での調査だけでは得られる情報が少なかったため、水辺の生き物館へ潜入することにした。実際、菊古川へ調査へ行ったのだが、私だけでなく友達や家族、町中の人たちにキクコマリモを見たことがあるかを聞いたところ、誰一人知っている者がいなかったため、菊古川の現地調

査はほとんど無駄だったといえる。そこで、キクコマリモについて知っていなければおかしい水辺の生き物館を調査するのである。午前二時三十分、水辺の生き物館への潜入に成功した。様々な生き物がいたが、図鑑に載っているような生き物はまるでいなかった。そして水辺の生き物館の五階にいくと、大量のキクコマリモを見つけた。キクコマリモの入った水の横に書類が置いてあるのを見つけた。内容は、「カルシウム、リチウム、酸素、ナトリウム、窒素、モリブデンを使用、ニメートル、無色透明、水流を抑える」というようなことが書いてあった。おそらくそれはキクコマリモの生息する条件である。

3 菊古川の再調査

八月十七日、水辺の生き物館のすぐそばの菊古川を調べた。すると、キクコマリモを三个体発見した。

最後に

結果としてキクコマリモは存在した。八月二日からの六日間の菊古川の調査では、キクコマリモを見つけ出すことはできなかったが、この調査によって得た情報から導き出したキクコマリモの生息条件の考察は当たらずも外れているわけではなかった。十分良い結果だったと思える。水辺の生き物館で得た情報からもう一度川を調査したが、書類にあった化学物質は確認できなかった。ただこれはこれからのキクコマリモの何かの条件なのだろう。今回のレポートではまだ条件などについては考察の域を出ないが、キクコマリモが確かに存在していたということだけはいえる。